

FROM KANSAI



辰野金吾設計の「あまみ温泉南天苑」。3つ現存する辰野の和風建築の一つ—いずれも大阪府河内長野市(南雲都撮影)



辰野設計 希少な和の原風景

②離れ特別室「清流亭」の囲炉裏
①8月のランチコース「月」。地元農家から仕入れた夏野菜や河内鴨のローストなどが並ぶ



あまみ温泉南天苑

大阪・奥河内の自然に抱かれるように建つ旅館「あまみ温泉南天苑」(大阪府河内長野市)。東京駅や日本銀行本店を設計するなど明治・大正期を代表する建築家、辰野金吾が手掛けた作品だ。先の大戦後、半世紀以上その歴史的意義が不明だったが、20年余り前の調査で設計者や歴史的経緯が分かり、国の登録有形文化財に指定された。「わび・さび」を感じられる部屋で季節感のある料理を堪能した。(中野謙二)

木々に囲まれた3千坪の敷地に建つ木造2階建て。もともとは大正2(1913)年に堺市の大浜公園に娯楽保養施設としてつくられた「潮湯」別館で、家族向けの入浴・遊戯・娯楽室だった。設計は辰野率いる「辰野片岡建築事務所」。西洋建築を得意とした辰野の和風建築は珍しく、現存しているのは奈良ホテル(奈良市)、武雄温泉楼門(佐賀県武雄市)、南天苑の3軒のみという。

昭和9(1934)年の室戸台風で損傷したことを機に、南海電鉄が古来ラジウム温泉が湧く天見の地に移設。当時は有馬温泉に匹敵する温泉地となることを目指していた。昭和10年から大阪の料亭「松虫花壇」が別館として営業していたが、戦火が激しくなるなかで閉鎖。堺市の潮湯本館などは空襲で焼失していった。

昭和24(1949)年、山崎一弘代表取締役(65)の父が南天苑を創業。このころは潮湯温泉からの移築は口承となっていたという。だが、平成14(2002)年に明治建築研究会が調査を行い、南海電鉄からも移築当時の資料が発見されたことが証明された。

14室ある部屋からは庭が眺められ、サクラ、サツキ、サルズベリ、紅葉など四季の草花を葉しめ、敷地内を流れる天見川にはカワセミやホタルが飛び交うという。100年を超える時間が積み重なった柱や手すり、季節の花がつけられた床の間、少波打った昔ながらのガラス戸。どこか懐かしい、原風景のような空間が静かに流れる。



女将の山崎友起子さん



南天苑の1室「泉灘」。緑あふれる庭を楽しむ。

あまみ温泉 南天苑



- ▼営業時間 昼食午前11時半~午後2時、夕食午後6~9時、8800円の「風コース」と1万円1千円の「月コース」(いずれも税込み)
- ▼定休日 なし
- ▼問い合わせ 電話0721・68・8081
- ▼住所 大阪府河内長野市天見158
- ▼アクセス 南海高野線「天見駅」徒歩約1分

和室でいただく会席料理は、季節にあわせて毎月メニューが変わる。菓月の献立、月コース(税込1万1千円)を選んだ。オクラ、キュウリ、ずんだ(枝豆)、トマトなど地元農家から仕入れたというカラフルな夏野菜が涼しげな器に盛りられ、夏バテ気味の食欲を刺激する。食前酒は庭でこれたブルーベリーや梅、ヤマモモなど自家製という。

